

はじめに

福島大学共生システム理工学類は、平成16年10月に全学編成体制のもとに発足した。本学類は、21世紀の課題（地球規模の環境問題、食糧・エネルギーなど）を解決するためには、従来の科学・技術の枠組みを超えた研究・教育システムを構築し、多様化し、複雑化する社会で貢献できる人材育成を教育目標に掲げている。その目標を達成するため、「人－産業－環境」に関する科学技術を「共生」の視点から捉えることとし、学類を3つの専攻分野、すなわち、人間支援システム専攻、産業システム工学専攻、環境システムマネジメント専攻で構成した。

本学類は、文理融合型のシステム思考を基盤として複合分野の教育研究を推進するとともに、専門基礎学力に加えて、課題を発見し自ら解決する能力を持つ、実践力のある人材育成を目指している。学類創設より2年半が経過し、創設理念がどの程度実現されたか、さらに共生システム理工学という新学問域の確立のために必要な教育研究のあり方を、将来構想を含めて客観的に検討する時期である。この際、学類の組織運営や教育研究活動に対して学外からの厳しい評価や意見をもとに、本学類が今後地域に開かれ、地域に貢献できる高等教育機関としての役割を果たすための改革を行う必要があると考えた。そこで、これまでの学類における教育研究活動を自己点検・自己評価し、それらをもとに外部評価をお願いすることとした。

外部評価委員会委員は、産業界と教育界の8人の学識経験者に委嘱した。学内では、学類運営会議が中心となり、外部評価資料の作成と準備を行った。外部評価は、予め各委員に自己点検・自己評価報告書を送付し、平成19年1月26日に委員をお迎えして、評価資料に基づく説明と質疑応答を行い、その後委員のみによる討議・評価の結果を講評していただいた。当日欠席の委員には、別途日程を調整し説明し、評価と講評をいただいた。本報告書の「外部評価委員会の議事要録」「各外部評価委員会委員の評価」など記載内容はすべて、それぞれの委員にご確認をいただいたものである。

本報告書にまとめた貴重なご批判とご提言を尊重し、今後の共生システム理工学類の組織運営および教育研究活動の適正化と進展に活かす所存である。

ご多忙中にもかかわらず、遠隔地にまでご足労願ひ、評価をいただいた外部評価委員会委員各位に心よりお礼申し上げます。

福島大学理工学群共生システム理工学類長

入 戸 野 修

共生システム理工学類外部評価報告書

目 次

外部評価委員会委員名簿・・・・・・・・・・ 1

外部評価委員会委員からの講評・・・・・・・・ 3

外部評価委員会議事要録・・・・・・・・・・ 14

外部評価委員会大学側出席者・・・・・・・・ 25

付 録

外部評価のための自己評価報告書

外部評価のための資料（第1編及び第2編）